

もの言う牧師のエッセー 第259話 リオ五輪⑦「これこそオリンピック精神」

陸上女子5000メートル予選レースにおいて、2人の選手が見せた助け合いの精神は、多くの人々の心を揺さぶり、我々に大切なことを気付かせてくれた。

ニュージーランドのニッキ・ハン布林選手がレース中に転倒。後ろを走っていた米国のアビー・ダゴスティノ選手が避けきれずに巻き込まれた。とその時、何と先に立ち上がったダゴスティノ選手がハン布林選手を助け起こすなどし、2人はレースを続行。だが、その直後、アクシデントで右足を痛めたダゴスティノ選手が顔を歪めてトラックに倒れ込む。すると、今度はハン布林選手が手を差し伸べた。2人は最後まであきらめずにレースを完走。ゴール後、抱き合って互いを讃えあったのだった。

「最初は何が起きたのか分からなかった。その後、肩に手を添えられて、これはオリンピックだからゴールしなきゃ、と言われた。これこそがオリンピック精神そのものだと思った」とハン布林選手が感謝すると、「本当に素晴らしいです。選手として最も大事なことを、多くの人々と共有できた」と喜ぶダゴスティノ選手。なお、彼女らは救済措置として決勝にも進出できた。政治、金、メディアなど最近ではウサンクサイ話が多い五輪だが、今では仲良しになった2人が爽やかな風を吹かせてくれた。聖書は言う。

「互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」 1テサロニケ人への手紙5章11節。

人生には、うまく行かない時、しくじる時、負ける時がある。だがそれで全てが終るわけではない。戦いは毎日続き、最後まで走り通すのがイエスを信じる者の精神だ。そのために教会は存在し、互いに励まし合い、徳を高め合うことにより、お互いが少しずつレベルを上げて行く。時にはキリストが救済措置を講じて次の舞台へと進ませて下さる。

